



石岡あづみ氏所蔵

石岡繁雄

1918 - 2006 年

登山家

1936（昭和 11）年：第八高等学校入学（文科。翌年理科に再入学）。山岳部所属。

1940 年：名古屋帝国大学理工学部入学。山岳部所属。

1950 年：名古屋大学学生部職員

1918（大正 7）年生まれ。旧制津島中学校を経て第八高等学校に入学。中学 4 年の時に白馬岳で本格的登山を始め、八高でも山岳部に入部。以後岩登りに夢中になったという。本人曰く、「困難な岩を登っている時だけが、生きがいと感じるようになった」。

高所への関心の繋がりもあり、大学では天文学を学ぶつもりだった。だが父親の反対で、名帝大理工学部電気学科に進学。ここでも山岳部に所属。

戦後すぐ三重県立旧制神戸中学（現神戸高校）の物理学の教師に就任。そこで山岳部を創設。1947 年に生徒 2 人とともに、穂高屏風岩を、当時前人未到と言われた正面岩壁から初登攀。当時の新聞にも取り上げられ、その様子は後に『屏風岩登攀記』として出版もされ、広くその偉業が知れ渡った。

だが、彼の名を最も世に知らしめたのは 1955 年の「ナイロンザイル事件」であった。1955 年 1 月 2 日、前穂高岳東

壁を登攀中に抗張力 1 トンの保証付き新製品ナイロンザイルが切断し、石岡の実弟が遭難死した。その後もこのザイルによる死亡事故は続いたものの、ザイルメーカーは技術的欠陥を認めず、また一部の学者や山岳会も原因究明を妨害した。

石岡は登山者の生命を守るという信念から実験を繰り返し、ナイロンザイルの岩角欠陥を科学的に立証。結果的に国が 1975 年に責任を認めて一応の決着はつく。事件の経緯は『石岡繁雄が語る氷壁・ナイロンザイル事件の真実』に詳しい。

ちなみに、井上靖のベストセラー小説『氷壁』（写真下）は、この事件をモデルに書かれた。これにより、昭和 30 年代に登山ブームがまきおこったと言われる。

